

# 臨床腫瘍研究所外来セミナー

**演 題：** EMT (epithelial-mesenchymal transition, 上皮-間葉転換) と EMT 様形態変化を誘導する分子群

**演 者：** 小沢 政之 教授

(鹿児島大学 医歯学総合研究科 生化学・分子生物学分野)

**日 時：** 平成25年 9月12日 (木) 午後5時より

**場 所：** 臨床腫瘍研究所 1階カンファレンスルーム

## 要 旨

上皮の癌細胞が浸潤・転移を起こす際に、上皮細胞の性質を失って線維芽細胞(間葉系細胞)様の性質を獲得する場合があります。この変化は上皮-間葉転換 (epithelial-mesenchymal transition, EMT) と呼ばれ、細胞の運動性の上昇が必要とされる発生の過程でも認められる。EMT 誘導因子の代表である転写因子の Snail は、上皮細胞の細胞間接着分子 E-カドヘリンや密着結合 (tight junction) のオクルディンの転写を抑え、N-カドヘリンやビメンチン、フィブロネクチンといった間葉系マーカーの発現を亢進する。これらの変化の結果、細胞は細胞間の接着性を失い、運動性が増加する。Snail は TGF $\beta$  の下流で作用することもあるが、glycogen synthase kinase 3 (GSK3)によりリン酸化を受ける部位があるので、WntあるいはPI3キナーゼ経路により制御されることが報告されている。Wnt 経路の発動により分解を免れた $\beta$ -カテニン は LEF-1 (Lymphoid Enhancer Factor-1)あるいは TCF (T cell factor)と結合して標的遺伝子の転写を促進するが、Snail ファミリーのメンバーである Slug (Snail2)や別のファミリーに属する EMT 誘導因子 ZEB1 が標的であることも報告されている。しかしながら、上に述べた事が全ての上皮細胞で観察される訳ではなく、いわゆる cell context-dependent な反応が起こる。そのため、結果の解釈に悩むことになる。

連絡先: 埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所 事務室

048-722-1111 (内線 4601)

対象者: 関心のある方 (事前申し込み不要)